

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	旅行代理店（従業員）	・海外旅行の人員ベースは前年比200%であり、国内についても順調に予約が入っている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・大型商業施設が相次いで出店し、オーバーストアの状態は依然として続いている。地方の中心商店街は今後もかなり苦戦が続く。ただ、一部の人気商品が景気上昇をけん引する。
		百貨店（販売促進担当）	・天神地区への集客が増えることが予想される。クリアランス、祭り等も含め、天神への一極集中が進む傾向にある。実際に天神以外の地区の来客が落ちている。
		スーパー（店長）	・食品については総額表示導入の影響が大きかったが、客がだんだん慣れ、食品以外の商品については割高感をそう感じていない。2、3か月前から、惣菜、衣料品、身回品等で上質志向の動きがあるほか、テレビ等のデジタル家電がかなり売れていること等から、景気はやや良くなる。
		スーパー（店長）	・鳥インフルエンザ、BSE等の影響がなくなり、国産牛肉を中心に鳥、豚も前年並みまで回復している。青果の相場が下がっているが、相場が上がれば昨年以上に商品の動きが良くなる。ただ、総額表示導入により食料品の価格設定のミスが発生しており、影響が現れている。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価が伸びていることから、景気も回復基調にある。
		衣料品専門店（総務担当）	・ヤング層の来店増が続いており、今後もしばらくは増加が続く。
		家電量販店（経営者）	・金銭の折り合いがつけば買う、もうしばらく待って買う、という声が聞こえ始めた。
		家電量販店（店員）	・4月は新製品投入前のため旧型のパソコンしか残っていないが、それが結構残らず売れた。これから新製品が出るため、悪い要素は見当たらない。
		家電量販店（総務担当）	・消費者の購買意欲の回復が感じられる。
		乗用車販売店（従業員）	・トラックの販売台数が伸びている。
		乗用車販売店（経理担当）	・新型車が来月出るため、相乗効果が他の車にも現れ、台数が若干伸びる。
		その他専門店〔医薬品〕（従業員）	・一品単価は下がったままであるが、来客数、購入点数は上昇傾向にある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・ガソリンの仕入値は5月がピークと予想しており、その後仕入値が下がり、ガソリンの販売が伸びる。
		高級レストラン（専務）	・九州新幹線の開業効果で、夏休みまではたくさんの方が鹿児島に来る。
		通信会社（業務担当）	・5月以降は、新商品の投入に加え、販売価格の低下により、購入を見送っていたユーザー層の機種取替需要が少しずつ高まる。
		ゴルフ場（従業員）	・若干価格を落としたところ、シニア層を中心に予約が入りつつある。また、大規模なコンペが前年を上回りつつある。価格を落とせば、若干なりとも消費意欲が出てくる。
		競輪場（職員）	・ナイターレースの開催による発売額の増加が期待される。
		設計事務所（所長）	・官公庁の委託の注文が多くなっている。また、個人住宅の受注等も増えつつあるので、景気はやや良くなる。
		変わらない	商店街（代表者）
商店街（組合職員）	・商店街の各店が、来街者を増やすための方策を見つけ切れていない。		
商店街（代表者）	・商店街は、駅前開発や大型店進出等で更に危機感を強めている。		
百貨店（営業担当）	・客の買物は依然として慎重である。物産催事における買上数量が減少している。また、婦人服の購買意欲も低下している。		
百貨店（営業担当）	・福岡市天神地区に百貨店がオープンしたため客足がそちらに向き、佐賀市内での買物が減っている。この傾向が今後も続く。		
百貨店（営業担当）	・株価の上昇もあり、緩やかに景気回復に向かうかと思われたが、予想以上に消費の動きは鈍く、一部富裕層を除き回復の兆しはみえない。本当の景気回復にはもう少し時間がかかる。		

	百貨店（売場担当）	・3、4月の動向を見ると、平日に比べ土日の売上が若干低い傾向があり、福岡市に吸引されているようである。この状況がしばらく続く。	
	百貨店（業務担当）	・日用品を中心に低下傾向にある。消費の減退は決して止まっていない。2、3か月では好転しない。	
	スーパー（店長）	・総額表示導入の影響が大きい。客は高いというイメージを持っており、買上点数に結構大きな影響が出ている。この傾向は今後も続く。	
	スーパー（店長）	・九州新幹線が開通し、観光客が多くなっているが、買物をする人が増えているわけではないため、ほとんど変わらない。	
	スーパー（総務担当）	・食料品は前年並みだが、衣料品、住居用品は前年を大きく割り込んでいる。バーゲン時には動きがあるものの通常の営業時にはあまり購買がない。この傾向が今後も続く。	
	コンビニ（エリア担当）	・酒類販売規制の緩和による新規取扱が、客単価の上昇につながっていない。また、スーパー等量販店の24時間営業化による客数の落ち込みで、売上も伸びない。この傾向が今後も続く。	
	乗用車販売店（経営者）	・若い人が車を買いに来ない。年配の人もなかなか来ないが、来たとしても予算が厳しい。	
	スナック（経営者）	・参議院選挙を控え、今の活発な動きが少し押さえ気味になる。	
	旅行代理店（業務担当）	・ゴールデンウィーク以降の受注の動きが悪い。国内・海外ともに前年を上回るのがやっとという状況である。	
	観光名所（職員）	・観光施設は、九州新幹線の開通により徐々に客数が増えているようである。ここ何か月かは増える傾向にある。	
	競馬場（職員）	・売上の減少幅は小さくなっているが、依然として減少傾向には歯止めがかかっていない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・総額表示への対応が物理的に不可能なため、実質5%割引での販売を余儀なくされている。また、古書のインターネット販売が多くなり、価格競争が厳しくなった。古書業界は今後も厳しくなる。	
	百貨店（売場主任）	・目的の物以外は買わないという傾向がますます強くなる。また総額表示導入により、消費者が割高感を抱いている。	
	百貨店（営業担当）	・6月の大型商業施設のオープンにより、来客数が減少する。	
	百貨店（売場担当）	・福岡市との都市間競争や、大分県内での競争が激化しており、依然として厳しい状況が続く。	
	スーパー（経営者）	・総額表示導入により、中元や贈物の値ごろ感が感じられず、売上が減少する。	
	スーパー（総務担当）	・全体的な景気の動向は現状と変わらないが、近隣に競合店が出店するため、競争が激化する。今後も厳しい状況が続く。	
	衣料品専門店（店員）	・近郊に大型商業施設がオープンする予定であり、客の奪い合いになるため、客数が減少する。	
	住関連専門店（経営者）	・昨年から、業者向けの展示会に一般消費者を入れる傾向があるが、4月の業者の展示会には一般消費者の来場が多かった。これが大川市の販売店の売上につながれば良いが、逆に消費者がメーカー直販に流れることが懸念される。	
	その他専門店〔書籍〕（店長）	・郊外に大型商業施設ができるため、影響が懸念される。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・前年はインターハイや造船会社の大型客船建造での技術者宿泊増等の特需があったが、今年はこれといったイベントや特需がなく、先行き不透明である。また、九州新幹線部分開業で南九州は脚光を浴びているが、西九州は取り残されている感じが否めない。	
悪くなる	百貨店（営業企画担当）	・市内の大型商業施設や鳥栖市のアウトレットモールへの客の流出、福岡一極集中も考えられるため、客数の減少傾向が8月までは続く。	
	高級レストラン（経営者）	・団体客の需要がほとんどなく、売上が減少している。今後もこの傾向がますます強くなる。	
企業動向関連	良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・既存の仕事が定着し、受注量も増えている。また、新規需要も成約しており、良くなる。
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・鳥インフルエンザの影響も薄らぎ、加えて需要期にも入るため、梅雨明け頃から消費が伸びる。
		食料品製造業（専務）	・全般的に需要量は上昇傾向にあり、稼働率も順調に推移している。この傾向が今後も続く。

	家具製造業（従業員）	・大型商業施設の建設が2～3年は続きそうであり、一部の家具店でも売上が好転しつつあるため、景気は良くなる。	
	金属製品製造業（企画担当）	・自社も含め、輸出関連が好調である。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・客先も仕事を受注できそうな気配を強く感じる。	
	精密機械器具製造業（経営者）	・現状の受注状況、カスタマーの状況から考えると、この受注量がまだ続きそうである。また、増えそうであるという情報も入っている。	
	輸送業（従業員）	・自社の取扱量が前年並みになり、下落傾向に歯止めがかかってきた。同業他社でも前年実績を上回る企業が半数を超えている。この傾向が今後も続く。	
	経営コンサルタント 経営コンサルタント	・店頭設備等、投資の動きが少し出てきた。 ・九州新幹線関連の工事が進んでおり、その関係でかなり近所の土地が動いている。不動産関係の動きにより、資産デフレに若干歯止めがかかる。	
変わらない	農林水産業（従業者）	・消費者は将来への不安が強く、通常の生鮮類に対する購買意欲はあまり強くない。そう簡単に現状を打破することはできない。	
	食料品製造業（経営者）	・得意先の話では、これといった良い材料も悪い材料もなく、前年並みの売上が予想されるとのことである。九州新幹線部分開業の効果もややあるが、売上を大きく左右するほどではない。	
	鉄鋼業（経営者）	・製品価格の値上げは需要家に浸透しているが、需要が今後大幅に増えるとは考えられない。国内市場は横ばいか、もしくは下降する。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・受注量は増えるが、材料コストが高くなっているため、景気が悪くなる可能性がある。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・今後もある程度の仕事量は確保できる。また、機械加工部門等、半導体関連以外も、まだまだ今の忙しさが続く。全体的には現状とあまり変わらない。	
	建設業（総務担当）	・新年度になっても官公庁からの発注が全くない。民間の設備投資にもあまり期待が持てないので、今後も非常に厳しい状況は変わらない。	
	輸送業（総務担当）	・春の新規出店分による増加はあったが、既存店の出荷量はあまり変わらない。しばらくは現状のままである。	
	不動産業（従業員）	・不動産全般の需要は、都市部で局地的には伸びているものの、全体的には伸び悩んでいる。この傾向が今後も続く。	
	広告代理店（従業員）	・やや好調の兆しがあるが、2～3か月では変わらない。市内の区域で好不調の偏りがみられ、市内全域で伸びなければ、景気が良くなったと実感できない。	
	広告代理店（従業員）	・景気は少し上向きというムードもあるが、セールス現場の話、売上状況、クライアントの様子から判断すると、依然として厳しさに変わりはない。	
やや悪くなる	繊維工業（営業）	・ここ2、3か月の間に、まだ倒産や閉鎖が続くのではないかと。高級品を作っている場合、クイックレスポンスができれば、国内生産でも生き残れるということであったが、それも行き詰まっている。	
悪くなる			
雇用 関連	良くなる	民間職業紹介機関（支店長）	・5、6月以降の求人数が拡大している。価格面でもおおむね下げ止まりの感があり、IT技術系等の一部職種では上昇局面に入っている。また、就業者の所定外労働時間が、前年比1%増で推移している。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・新年度の料金改定交渉は、相変わらず困難である。また派遣オーダーはあるものの、価格交渉、紹介予定料について、話は進むものの紹介料の段階になって交渉が厳しくなっている。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・周りに悲観的なムードがなくなってきた。長崎県は中小企業が多く、悲壮感が強かったが、少しずつなくなっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・中元や夏物の需要に対してメーカーや物流の動きが活発になる。労働者派遣法の改正により製造メーカーへの派遣も可能になり、業務請負企業との競争も激しくなる。求人市場は活発になるが、景気に直結するかどうかは判断が難しい。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・企業の採用に対するマインドの改善により求人数が増加しており、好転する。地方企業でも、インターネットによる求人の進展に伴い、全国からの募集が可能となる環境が整っている。

	職業安定所（職員）	・前年の9月より求人倍率が全国平均並みになっており、0.7倍台を維持している。
変わらない	職業安定所（職員）	・直接雇用の常用求人の増加が期待できない。派遣、請負求人割合が高い。
やや悪くなる		
悪くなる	-	-